

## 館蔵品特別鑑賞講座 ～日本刀編～

日時：2025年9月13日(土) 14:00～15:30  
会場：佐野美術館講堂  
参加人数：10名

佐野美術館賛助会ミュージッククラブ主催の標記講座にて、講師の志田理子学芸グループ主任から、解説と手を取っての指導を戴きました。

佐野美術館で何度か刀剣を鑑賞したことはあるのですが、綺麗に陳列された刀剣について、刃が上や下を向いて置かれているのは「何故かなー」やただ凄く「切れそうだなー」位の感想でした。今回の受講でその理由や作刀から現在までの来歴を聞いても後期高齢者の頭脳に細かいことまで入れるには無理がありました。

映像で刀を見る場面はありますが、実際に刀を持つのは初めての経験でしたのでドキドキしながら、教わった作法に則り鑑賞いたしました。直刀から脇指まで各々重量感がありその姿の美しさを感じる事が出来ました。

刃文はわりと解り易かったのですが、地文は、白内障気味と飛蚊症の眼では、見分けることが困難でした。ただ実際に6振の直刀や脇指を持ち、その各々の刀の持つ来歴は奥の深いものがあるのだと思うと、新鮮な気持ちで鑑賞することが出来ました。

今後、自分なりに刀の姿を求めて鑑賞したいと思います。

(ミュージッククラブゴールド会員 大庭 芳和 様)



## 館蔵品特別鑑賞講座 ～花の絵とともに編～

日時：2026年1月31日(土) 14:00～15:30  
会場：佐野美術館講堂  
参加人数：12名

今回は花をモチーフに描かれた5点の館蔵品を鑑賞しました。日頃生け花を学んでさまざまな花と出会い楽しませてもらっているのに、江戸時代の先人がその花々をどう表現されているか、とても興味深く見させていただきました。

鑑賞する前に、講師の河内えり子学芸グループ長のくわしい説明解説をスライドを見ながら学ぶことができ、鑑賞する視点が広がり、ただ見ただけでは気づかない深い気づきを得られました。

「秋草図」は京都の町屋にあったという宗達派の工房による作。紙本金地着色の2曲1隻。紅白の萩等の花が、ススキをバックに描かれている。白萩は貝がらから作った胡粉で、浮き出る様に美しく表現されていた。ススキの花も咲き始めから花開いた様が、楚楚と描かれていた。

「蓮池観音図」明和4年、白隠慧鶴禅師の紙本墨画1幅。原の生まれで、松蔭寺住職を50年近くつとめ、無量寺(富士市)、龍澤寺(三島市)を開く。膨大な著書と書画を残す。泥の中から清らかな花を咲かせる蓮と、慈愛に満ちた観音さま。下書きの線もあえて消さず、大胆に墨を重ねて描かれている様が間近に見られ、うれしかった。

(ミュージッククラブ正会員 長川 さとみ 様)



# ミュージック交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

イベント  
スケジュール  
2026



### 佐野美術館 展覧会情報

岩合光昭写真展  
「ご当地ねこ」 2026年  
4月11日(土) - 6月28日(日)

さのびコレクション  
旅する昔ばなし 2026年  
7月4日(土) - 8月30日(日)  
—名所・山水・物語の絵画から—

### ミュージッククラブ会員 募集中

●正会員：1万円  
●ゴールド会員：2万円  
●特別会員：10万円  
ミュージッククラブでは会員を随時募集しています。年間パスポートの発行やショップでのお買物1割引(商品によっては割引出来ない場合があります)、会員限定イベントの開催など様々な特典があります。詳しくはミュージッククラブ事務局 (Tel.055-975-7278) までお問い合わせください。

新規入会者 (2025年9月1日～)  
ゴールド会員 緒明春雄、辻進  
正会員 厚見稲子、大木洋美、大城一枝  
カメヤ食品株式会社 代表取締役社長 亀谷泰一、  
木村幸子、國京千春、諏訪有香、関亮子、芹澤貴清、  
高橋功、原文子、藤澤政和、株式会社三島グランドホテル  
※敬称略、50音順



2026 年度  
活動予定

# イベントスケジュール

2026 年度に開催されるイベントをご紹介します。  
皆さまのご参加をお待ちしております。

※各イベントの募集は開催日の約1〜2ヶ月前から行います。※会員の皆さまは随時お届けしておりますイベントチラシをご確認の上お申し込みください。※諸事情により変更や中止となる場合がございます。

## 会員のつどい

日時：4月29日(水・祝) 15:00~18:00  
会費：会員3,000円(会員／一般共通)  
定員：35名(要申込・先着順)  
会場：佐野美術館講堂  
出演：桃月庵こはく(落語家)

年度初めに行う総会「会員のつどい」。前年度の活動報告と新年度の活動計画の発表後、落語をお楽しみいただきます。2026年度は桃月庵こはくさんをお招きし、演目を2題ご披露いただきます。落語家の桃月庵こはくさんは、2013年に桃月庵白酒師匠に弟子入りし、2018年に二ツ目に昇進しました。磨かれた話芸としなやかな感性で、古典落語の深みをお届けします。落語鑑賞の後は、こはくさんも交え懇親会を行います。会員同士の交流はもちろん、こはくさんから落語の世界のお話も伺ってみましょう。



桃月庵こはく

## 第21回 ミュージッククラブゴルフ大会

日時：5月21日(木) 8:00~17:00  
会費：会員2,200円／一般3,300円  
プレー代：8,500円  
定員：16名(4名×4組)  
会場：芦の湖カントリークラブ

佐野美術館創業者・佐野隆一翁ゆかりの、歴史と伝統のあるゴルフ場、芦の湖カントリークラブで開催する会員親睦ゴルフ大会です。富士山を仰ぎ、眼下に駿河湾が広がる高原リゾート地で、爽やかな汗を流しませんか。2026年2月にはロッカールームが改修され、より快適にプレーをお楽しみいただけるようになりました。プレー後の表彰式では、参加者全員に美術館ならではの賞品をご用意しています。ビギナーや女性の方のご参加もお待ちしております。



2025年度の様子

## 芸術鑑賞 日帰りバス旅行

日時：6月11日(木) 7:00~19:00(予定)  
会費：会員14,300円／一般16,500円  
定員：40名(要申込・先着順)

美術館を巡りながら、会員同士の交流や美術に関する見識を高める芸術鑑賞日帰りバス旅行。2026年度は、山梨県の中村キース・ヘリング美術館と久保田一竹美術館を訪ねます。1980年代のアメリカ美術を代表するアーティスト、キース・ヘリング。中村キース・ヘリング美術館は「闇から希望へ」というコンセプトのもと、ヘリングの作品と深く向き合い、対話することのできる美術館です。久保田一竹美術館は、染色家久保田一竹の精緻な染色芸術作品「一竹辻が花」を展示する美術館です。当日は「無言(しじま)の唐花(さくら)」「Cherry Blossoms of quiet」と題して、“桜”をテーマにした作品を鑑賞します。昼食はフルーツパーク富士屋ホテルで和食ランチを予定しています。初夏の1日、芸術に満たされるひとときを過ごしませんか。

## 十三夜の宴

日時：10月23日(金) 17:00~20:00  
会費：会員4,400円／一般6,600円  
定員：70名(要申込・先着順)  
会場：佐野美術館庭園内  
※雨天の場合は中止  
出演：未定

毎年十三夜の夜に、“月と音楽をたのしむ演奏会”をテーマに開催する「十三夜の宴」。佐野美術館に隣接する国の登録有形文化財「隆泉苑」の庭園にて、ジャンルを問わない幅広い音楽をお届けする野外コンサートです。秋の風情を感じながら、月明かりの下で美しい調べをご堪能ください。演奏後は、バイキング形式の温かいお食事やお酒をご用意します。恒例の抽選会も行いますので、ご家族やご友人とぜひご参加ください。



十三夜の宴

## 館蔵品特別鑑賞講座

日時：1回目 11月中のいずれか1日「日本刀編」  
2回目 2027年2月中のいずれか1日「装身具編」  
14:00~15:30  
会費：1回目 会員3,300円 一般4,400円  
2回目 会員2,200円 一般3,300円  
定員：各15名(要申込・先着順)  
会場：佐野美術館講堂

佐野美術館の収蔵品を会員の皆さまにじっくり堪能していただく館蔵品特別鑑賞講座。1回目は恒例の日本刀、2回目は装身具(簪などの身に着ける飾り)をご紹介します。学芸員の解説とともに、展示ケース越しではなく、間近で作品をご鑑賞いただける貴重な機会です。お見逃しなく。



館蔵品特別鑑賞講座(刀剣)

2025 年度下半期  
活動報告

# イベントレポート

2025 年度下半期は 4 つのイベントが開催されました。

## 十三夜の宴

日時：2025年11月2日(日) 17:30~20:00  
会場：佐野美術館庭園内「隆泉苑」  
参加人数：59名

11月2日、十三夜の宴が催された。十三夜は旧暦の9月13日だが、今年は閏6月があったため昨年より二週間以上遅く、寒かった。演奏は沖縄ブルース民謡アーティストと称されるShinBowさんの三線と唄、佐藤あきさんの太鼓というユニット。ShinBowさんは自ら琉球語を話す最後の世代だと言う。東京でトップモデルとして活躍した後、三十代で故郷の本部町に帰ってから三線を手にした、とは琉球新報の記事などから知った。

唄は最近流行りの沖縄歌謡曲とは全く異なり、ゆったりと、三線と時折入る太鼓に合わせて切々と歌い上げる。「ていんさぐぬ花」は鳳仙花のことで、その赤い汁で爪を染める様に親の言葉を心に染めなさい、という民謡だと。またイタリア系の父親への憧憬も言葉の端々から溢れ、伸びのある歌声から平和への強い希求が伝わって来た。ステージ衣装が薄着と裸足で、この寒さで大丈夫かとこちらが心配してしまっただが、最後を「キラキラ星」でまとめた、素晴らしいライブだった。

(ミュージッククラブ運営委員 小林 俊)



## 歌舞伎座鑑賞日帰りバス旅行

日時：2026年1月22日(木) 7:00~19:30  
参加人数：44名

朝、少し早い7時15分、予定通りバスは松陵駐車場を出発しました。車内は、会員、特に奥様方の華やいだ声に溢れています。雪化粧の富士山に見送られ、向かったのは歌舞伎座。そう、今日はミュージッククラブ、歌舞伎座鑑賞日帰りバスツアーです。私としては初めての歌舞伎で、付け焼刃で一冊の本は読んでいましたが、イヤホンガイドの料金が700円から800円と変わっており、古かったかと反省。しかしながら、到着した席は、舞台のすぐ近く、役者さんの汗が飛んでくるか、劇中の蜘蛛の糸が届くのではないかと、素晴らしい席です。

しかも、舞台が始まってみると、突然人物が舞台に現れる場面が有ったり、反対に消えてみたりと、初心者の中には驚きの連続で、歌舞伎って少し堅苦しくて、形式ばった物と思っていたのが嘘のように引き込まれました。加えて、意外と笑える場所も用意されていたり。良い場面になると、3階席から、〇〇屋と声がかかり、ああ歌舞伎に浸っていると。まあ、そんな中で、午年でも有るので、最後に幕外の芝居で、実盛(勘九郎)と、言う事を聞かない馬の掛け合いは大いに笑えました。



とにかく、本から頂いた知識で、イヤホンガイドを借りていたお蔭で、楽しく観劇させて戴きました。満足感に包まれた帰路でしたが、関係なく道路は渋滞、運転手さんの機転のルート変更のお蔭で、夜空に浮かんだ春三日月に見守られ、時間通りの到着となりました。素晴らしい企画を準備して戴いた皆様、本当に有難う御座いました。

(ミュージッククラブ正会員 山下 博巳 様)